



# 名古屋いのちの電話



写真 文珠幹夫（社会福祉法人 武田塾 子供たちの協力）による

空をかついで

石垣りん

肩は

首の付け根から

なだらかにのびて。

肩は

地平線のように

つながって。

人はみんな

空をかついで

きのうからきょうへと。

子どもよ

おまえのその肩に

おとなたちは

きょうからあしたを移しかえる。

この重たさを

この輝きと暗やみを

あまりにちいさいその肩に。

少しずつ

少しずつ。

詩集「略歴」より

## 病者と共に

日本福音ルーテル恵教会員

鳥飼勝隆

私は内科医を仕事としている。また、医師会の難病相談室のお手伝いをし、その中で、膠原病といわれる難病の療養の相談を受けている。この病気については余り知られていないが、アレルギー体質などと似て免疫機能の異常によっておこる病気である。しかも、ある程度はその体質が遺伝するともいわれている。

もう少し説明を加えると、どういう訳か、この病気は比較的若い女性に発病することが多い。発熱があったり、関節が痛んだり、皮疹がでたり、あるいは腎や肺に機能障害が生じる。これらの症状がでたり、あるいは治療によって寛解したりが、長年続く。症状は寛解させえるが、残念ながらこの原因となる体質は現在の医学では、まだ取り除くことができない。従って、油断をするとまた再燃をしてくるので日常生活にも支障がでる。また、若い女性が多いので、これからの自分の病気がどうなっていくのか、いまの治療のままでよいのか、将来の結婚や家庭生活、あるいは出産などができるだろうか、などなどの不安や心配は並み大抵なものではない。

このような病気の治療を専門とし、また、医療相談に参加していると、単に病気そのものの治療だけではなく、患者さんの将来の不安や生活の問題の相談にも関わらなければならない。

この種の病気に対しては極端に言えば一生闘病を続けなければならない。短期間、徹底的に治療をしても全治することはない。このことは、一通りの説明では、なかなか、患者さんは納得してくれない。それは当然かもしれない。いのちに関わることなのだから。しかし、こちらも生まれ身の人間である。やつぎばやの終わることのない質問には、いささか閉口することも稀れではない。その時にいつも感じることは、人は己れの望まないことを受容することがいかに難しいかということである。でも、酷な言い方ではあるが、そこを通り越す以外に他の道はない。

「大事をなそうとして

力を与えてほしいと神に求めたのに  
慎み深く従順であるようにと  
弱さを授かった。」

と受け容れられる時に、患者さんには重荷をもちつつも積極的な生活が始まる。

そして、私が患者さんにできることといえば、病気の活動性や進行を最小限度におさえるための最大の協力をするのである。幸いにして、それに対して患者さんから信頼してもらえた時、種々のハンディキャップはあるものの、また、家族や隣人の協力は必要であるものの、初めて患者さんにとって病はもちつつも積極的な生活が始まるように思われる。

「いのちの電話」では、私の立場と異なり、受ける相談の内容は多彩を極めていることであろう。しかも、中には緊急のせっぱ詰まった相談も多いことであろう。「いのちの電話」がこの緊急の状況を回避するために大きな働きをなしていることに敬意を表したい。そして、緊急の状況が過ぎた後に、必要とされる課題は先き程の医療の場合と共通することが多いのではなかろうか。当人がなすべき己の受容と信頼できる隣人とがどうしても必要となろう。

近年、ホスピスという身体的な医療のみではなく、死を迎えた人たちの心を支えようとする施設がつくれ、その必要性が高く評価されている。このような施設がさらに増えることはよいことである。しかし、これは私の個人的な意見であるが、生と死の問題は、経験豊かな専門の精神科医や心理学者、専任の宗教家から指導されるよりも、我々には、まずは、家族や、自分の教会の牧師さん、あるいはお寺の住職さんとの間にこそ、本当の語らいがあってよい筈ではないだろうか。ホスピスができたと安んじて、教会や寺院の本来の姿の一つが失われることのないように心したい。そのためにも、「いのちの電話」がその懸け橋となしてほしいと願ってやまない。

カウンセラーとして  
相談員として

田畑 洋子

ふり返ればすでに？10年前、前途洋々たる道が開けていると感じられていた頃、将来の職業として教員を選び、そのための勉学の場として教育学部を選んだのが、意識的な人生の始まりだったような気がする。興味深そうな心理学なる学問があるのを知ったのも大学に入学してからだった。ちょうど学生運動の始まりの頃でもあり、学生達は社会の動きに敏感に触角を働かせ、反応を示していた。いやが上にも“社会とは”、“人間とは”と考えさせられ、激動する時代にあって“どう生きるか”の問いが突きつけられていた。その中で社会の仕組みやあり方についての興味は高まっていった。しかし、議論の渦中でどこか自分になじまない落ちつかなさも感じていた。“全体としてみればそうだけど、このひとりの人はどうなのか”というような思いであろうか。あまりにも全体を重く見る見方についていけないのを感じ、私の興味は次第に“個としてのひとりの人”に集約していったように思う。“このひとりの人”と深くつき合おうとする心理療法の道に入りこむことになってしまったのである。

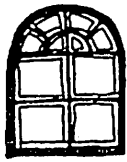
最初に志した中・高教員の道からは横にそれてしまったが、現在は大学で講義をし、学生達の相手をする教員の生活と、相談室でのカウンセラーとしての生活と両面を生きることになっている。この両者は似た面も多くあり、外からは同じようなことをやっていると感じられているかもしれない。しかし、スイッチの切りかえを上手にやらないとうまくこなせないことも起ってくる。元気で陽気な学生達と話した後の面接はよほど慎重に心の切り替えを行なわないとクライアントの心のひだに沿うことが出来ないし、深刻な家族の問題に取り組んだり、クライアントと共に現実から離れた時間に漂った面接の後では、講義のことばがなめらかに出てこないこともある。短い時間の間に切り替えをするためにかなりのエネルギーを使っ

ているのである。面接室のドア一枚がことさらに大きな意味を荷なってくるように感じられる。しかし、考えようによっては、聖と俗、内と外、現実と非現実の世界を行き往することによって全体としての私が生かされている。バランスが保たれ、精神的な健康も支えられているような気がするのである。

私には計4人の叔母がいる。青春期に戦争を体験した人達なので、それぞれに屈折した人生を生きている。少女期に母をも含めてこれらの大人の女性の世界を垣間見た私は、いつも“小説になりそうだな”と感じていた。どこかでカウンセラーの道を選んだことと関連があるように感じている。自分自身どのような物語りを生きるのかまだ予想も出来ない頃であった。人生のストーリーの荒筋がふり返れるようになった今、ただ一つの自分の人生に織りこまれて、多彩な色をつけ、豊かなふくらみを与えてくれている幾つかの物語りがあることに気づくのである。心地よい楽しみ多いものであるよりは、苦しみや悲しみにみちた挫折や苦難の物語りである。主人公達にとっては決して望んでいるものではないので、はなはだ勝手な思いになってはしまうが、このようなクライアントの人生に関わることにより、私自身人の何倍かの人生を生きることが出来たのである。そのことでクライアントの重荷が減るならば、カウンセラー冥利につきるといえるだろう。

カウンセラーはクライアントから次々と課題を与えられ、成長させられていく。苦しいことではあるが魅力にみちたものでもある。そしてその場を根底から支え、癒されるのは、困窮の極みにおいてさえ“生きよ”といわれる存在であろう。いのちの電話の相談員の仕事を支え、継続の力を与えているのもこのような魅力と癒しの体験に気づいていくことではないかと思うのである。

(名古屋女子大学文学部助教授)



# 窓



## 朝日社会福祉賞受賞

理事長 相馬信夫氏(カトリック名古屋教区司教)

日本いのちの電話連盟理事長 秋山聡平氏

1991年度の受賞者2名が正月3日、朝日新聞朝刊に発表、大きく掲載されました。この賞は権威ある賞で厳しい審査の末に選ばれたとのこと。

相馬理事長の受賞理由は、名古屋を中心に社会的弱者の支援活動「重度障害者の生活をよくなる会」をはじめ、「A J U自立の家」、アルコール、薬物依存者の社会復帰を支援する「名古屋マック」、養護施設「麦の穂学園」、名古屋駅周辺の野宿者の炊き出し、外国人労働者のための相談・救援、インドシナ難民の定住手助け、そして、愛知「いのちの電話」協会の電話相談活動と事業の対象者自身が一貫して自立するための支援に向けられている。

また国内ばかりでなく、軍事独裁下の時代に逮捕された神父の救援支援、金芝河の獄中からの良心宣言の翻訳支援、フィリピン・ネグロス島農民の経済的自立支援、国連を訪問し東チモール支援の訴えそして湾岸

戦争で記憶に新しい難民救出のため民間機11機をチャーターし三千人を母国に移送、さらに中東の被災難民調査団団長として現地に飛び、6プロジェクトに移送募金の2億円を支援等国際的にも人間尊重の姿勢で率先して取組んだと記されている。

秋山聡平氏の受賞理由は、たゞ一筋「自殺者を減したい」の思いで、15年前の北九州いのちの電話の創設、日本いのちの電話連盟の創設そして理事長となり、自殺予防シンポジウムの全国での開催、「いのちの電話」活動の協力、設立等に尽力され、今や日本いのちの電話連盟、35センター、5000名余のボランティアをはじめ、関係者の精神的な支柱である。

なお、相馬信夫理事長の受賞お祝い会は、関係の社会福祉団体全体で豊田壽子さんが代表となり、次の様に開催される。

1. 日時 1992年2月14日(金) 午後6時から
2. 会場 朝日講堂(朝日新聞名古屋本社内)
3. 会費 金7,000円

(パーティー会費及び記念品代を含む)

## 家族からのメッセージ

お母さんへ

「いのちの電話」の相談員を始めてから、どれくらい経ったのかな…? 詳しいことは、話してくれないけれど、相談員としてすこしは、余裕ができたのかしら…? と娘は密かに心配しているんですよ。

「継続研修」とか、「スーパービジョン」だとか言って、まるで学生のように、勉強しているお母さん。研修の後は、「私はまだまだ人間として学んでいくことがあるわ。」と悟ったように、自己反省しているお母さん。なんだか「勉強の苦勞」と、「得るものの幸せ」の2つが混ざっていて、娘の私が言うのも変だけど、輝いて見えます。きっと、世の中には、いろいろな性格の人がいて、数えきれない程の悩みがあって…。それを発見した時は、本当に驚いたんじゃないですか?

そして時には、いやになってしまうこともあったでしょう。実は何回か、落ち込んで見えることもありましたが、でも、次の当番に行く時に、「さあ、行って来るわ!」とさすがしくやる気満々で出かけていく姿を見て、「人の為に(…というありふれた言葉であらわせないような)何の報いも求めることなく、取り組む生き方」を、私は知らず知らずに、学んでいるようです。そして、その生き方が、私の人格にも、きっと何らかの形で表われることと思ってます。ちょっと、照れくさい。ほめすぎちゃったかな? ほめた後は1つお願い。私を叱る時は、多分、実践して来ているように、「やさしく」「ゆっくり」「おだやかに」どうか、お手やわらかにお願いしますね。

毎日、人生は勉強の連続で辛いこともあるけれど、これからも、親子で育ち合っているといいですね。

娘より

全国電話相談研究集会  
電話相談ワークショップ

全国電話相談研究会は1988年9月横浜で発足し、初回集会から毎年会を重ねて本年度は第4回が金沢で開催されました。この間、電話相談活動は民間、行政を問わず、保健衛生、教育福祉など多くの分野で積極的に取り上げられ、関係者の電話相談に対する関心の高まりには目を見張るものがあります。北は北海道、南は九州そしてお隣の韓国からも参加し、約300名が一堂に会して熱心に討議しました。

2日目は第2回電話相談ワークショップ（体験学習とケーススタディによる）でした。具体的で実践的な課題A～Eの中から一つを選び4時間研修しました。現場ですぐに役立つ研修でした。

次にこの2日間の研修の内容を簡単に紹介します。

第4回 全国電話相談研究集会 11月9日(土)

1. 研究発表

「セックス通話による電話相談員の対応」

「地方都市の電話相談の役割」

「横浜いのちの電話心理専門相談」

2. 基調講演

「電話相談のなすべきこと、できること」

講師 青山学院大学文学部教授 長谷川浩一

3. シンポジウム電話相談と社会的援助資源との連携

精神保健センター、児童相談所、いのちの電話の各立場から

第2回 電話相談ワークショップ 11月10日(日)

(体験学習とケーススタディによる)

A) マイクロ・カウンセリング方式による傾聴技能の習得。B) エクササイズを使つてのグループワーク。C) コミュニケーションスキル。D) 電話相談への家族療法の応用。E) ケーススタディ常習通話者 (1)作話を繰り返す常習通話者、(2)境界例

興味と期待をもって参加したこの2日間の研修は、私にとって今まで気づかなかつた事柄、相談活動の広がりとその連携の大切さ、電話相談と社会的援助資源との望ましいあり方の課題など考えさせられました。愛知県下でも電話相談に対する期待と責任、可能性を求めて愛知電話相談研究会が昨年発足し、力強く歩み始めています。

訓練委員 斎藤 延枝



## ご援助ありがとうございます

1991年10月1日より12月末日までに下記の方々から暖かいご支援をいただきました。一同深く感謝いたしますと共にご報告申し上げます。(順不同・敬称略)

社会福祉法人愛知「いのちの電話」協会  
理事長 相馬 信夫  
財務委員会

### 賛助会員(A)

中野廣子	木全昭二	相馬信夫	岩村晴亮	伴田亮紀	西田史郎	和木千寿志	山森伊川	口藤松原	幸ひ倫啓	男子元美	島水木菅	田野島本	正由正之	實吉司助	須高山國	藤橋下分	よし多政	子寿一雄	直黒宮木	井田邦藏	忠嘉・靖	豊嘉子男	田大高伊	中橋本藤	健恒紀と	次子とき	郎子ゑな
相木岩伴	松岡田	西和田	八木武志	子進郎	山須名井	口藤松原	幸ひ倫啓	男子元美	島水木菅	田野島本	正由正之	實吉司助	須高山國	藤橋下分	よし多政	子寿一雄	直黒宮木	井田邦藏	忠嘉・靖	豊嘉子男	田大高伊	中橋本藤	健恒紀と	次子とき	郎子ゑな		
相木岩伴	松岡田	西和田	八木武志	子進郎	山須名井	口藤松原	幸ひ倫啓	男子元美	島水木菅	田野島本	正由正之	實吉司助	須高山國	藤橋下分	よし多政	子寿一雄	直黒宮木	井田邦藏	忠嘉・靖	豊嘉子男	田大高伊	中橋本藤	健恒紀と	次子とき	郎子ゑな		

### 賛助会員(B)

橋本茂	乃女美敏	齋工岩山	藤藤本田	延育康恵	枝子子子	岩加真岡	田藤光弥	百合成喜	合男子恵	柏森間伊	谷部瀬藤	晴曉喜静	彦子郎子	市石加比	原川藤嘉	豊美ウ正	子恵晃夕	小辻竹荻	幡村原森	美潤絹孝	登一子子	理一子子
橋本茂	乃女美敏	齋工岩山	藤藤本田	延育康恵	枝子子子	岩加真岡	田藤光弥	百合成喜	合男子恵	柏森間伊	谷部瀬藤	晴曉喜静	彦子郎子	市石加比	原川藤嘉	豊美ウ正	子恵晃夕	小辻竹荻	幡村原森	美潤絹孝	登一子子	理一子子

### 賛助会員(C)

豊島知子	木全沙美	堀本妙子	松田百代	北條とく	飯塚重五	長倉久子	河秋服	村田部尾	公芳典美	子江子一	林中新細	郁紀恵智	子美子津	山足田相	下立中馬	マ国あ貞	サメ子さ	山江葉玉	崎口来田	京萬正昌	子勇子子	鳥山岡西	居内崎沢	平亮和み	和一子子
豊島知子	木全沙美	堀本妙子	松田百代	北條とく	飯塚重五	長倉久子	河秋服	村田部尾	公芳典美	子江子一	林中新細	郁紀恵智	子美子津	山足田相	下立中馬	マ国あ貞	サメ子さ	山江葉玉	崎口来田	京萬正昌	子勇子子	鳥山岡西	居内崎沢	平亮和み	和一子子

### 法人賛助

名証正会員協会	(株)東海通信資材サービス	(株)オチアイネクス	(株)アラキ製作所
(株)トヨタレンタリース名古屋	(株)高木製作所	(株)伊藤工務店	(株)高津製作所
カルビー(株)中部営業部	安田火災海上保険(株)	丸太運輸(株)	三井建設(株)
千代田火災海上保険(株)	アサダ(株)	太榮印刷(株)	日本電話施設(株)
中央精機(株)	龍定(株)	(株)青山製作所	武田機工(株)
豊田総建(株)	サッポロビール(株)名古屋支店	(株)フジキカイ	中部電話印刷(株)
(株)大彦	(株)名古屋銀行	(株)ミヤタコーポレーション	(株)東郷製作所
矢嶋工業(株)	(株)榎屋	大和機工(株)	万能工業(株)
(株)ワロン	杉山工業(株)	尾張精機(株)	東邦ガス(株)
中部トヨタリフト(株)	三愛工業(株)	(株)三五	明和工業(株)
(株)三光堂	日本舗道(株)中部支店	東急バス(株)	(株)芝岡製作所
鬼頭工業(株)	(株)名古屋観光ホテル	(株)三珠モールド	(株)東海銀行
(株)松坂屋	アイシン精機(株)	中部電力(株)	セキセイ(株)
フタバ産業(株)	鹿島建設(株)名古屋支店	(株)大林組名古屋支店	(株)愛知兄弟社
(株)城北自動車学校	アイシン・エイ・ダブリュー(株)	小林記録紙販売(株)	トヨタ自動車(株)

寄付金

内川正邦	中村三郎	鳥井 寛	佐々木さと子	上田きよ	志村澄江
聖心会	森久つえ	楠 忠雄	須藤よし子	名古屋国際婦人クラブ	
日本福音ルーテル名古屋教会		小沢孝子	小塩美陽	日本キリスト教団金城教会	
谷口江利子	加藤幸雄	高須瑞枝	安藤重信	鈴木ゆかり	岩田邦子
備大黒屋佛壇店	児玉光雄	千波富美子	生川和子	安藤和代	神尾初子
伊藤宗太郎	内海捨子	安原律子	鈴木 智	渡辺守明	八木武志
日本同盟基督教団愛宕山教会婦人会		山崎百合子	秋田芳江	一宮聖光教会・一宮聖光幼稚園	
幼き聖マリア修道会		傍島千咲子	備名古屋花き卸売市場		三田村吉朗
木本精之助	豊田江美	渡邊宜親	リチャード・メリット		
日本聖公会名古屋聖マタイ教会		聖心の布教師妹会鳴海修道院		加藤みゆき	高城道子
ドミニコ会聖ヨゼフ修道院		松永乃登	佐藤あさ子	鈴木富子	近藤しげ子
日本基督教団春日井教会婦人会		柳原佳枝	植木貞次郎	日本基督教団金城教会婦人会	
小田紀子	近藤秀子	笠井康助	野村敏子	金子一夫	大橋 京
岐阜カトリック教会アンナ会		足立文彦	菅沼恒子	林 郁子	梶原 寿
北條献示	荒川浩一郎	日本基督教団熱田教会		宇佐見保子	ユニオン・チャーチ
日本基督教団名古屋中央教会		山田正代	原 久枝	鈴木道子	長沼てる子
水沢みち子	白田治子	伊藤みつ子	宮田喜代子	片岡倭子	三井とみ恵
小島初江	坂本武志	日本基督教団中京教会婦人会		長野信一	柳沢幸子
ヘンデル協会金城学院みどり野会		三好のぶ子	南山幼稚園	佐竹一予	山田久子
山田正義	小知和優江	日本基督教団金城教会社会委員会		カトリック平針教会	
高橋一美	尾関静枝	聖霊病院	竹内宏子	柴田知江	志村 恵
道家良枝	金城学院高等学校	村瀬政子	牧岡恒夫	芝原慶次・ゆかり	大洞陽子
西野友英・三緒子		押切カトリック教会		日本基督教団春日井教会	
聖霊奉待布教修道女会		梅澤晴子	土方つや子	聖霊修道院	
日本キリスト改革派八事教会		岩間恵笑子	河野登喜子	名東教会婦人会	五藤昭子
初井英夫	金森タイ	幼き聖マリア修道会		神戸一子	神田輝夫
カトリック恵方町教会		岐阜カトリック教会		栗田美津子	中野悦美
高須速夫	近藤直枝	高田邦彦	小谷充子	多和田いみ子	矢満田篤二
日本基督教団愛知教会		池田妙子	大橋玲子	CL橋サロン加藤 満	
高橋栄一	梶浦和由	成木さち	森田浩子	蟹江カトリック教会	
山本のぶ子	西田史郎	河津百合	坂野延子	早川重男	加藤迪春
瀬戸聖霊修道院	坂本康信	社会福祉法人聖霊病院		宮内英夫	林 純子
岩佐敏志	井上幼稚園	松村睦子	備山田八郎法衣店	林たか枝	岩田敏一
備岩田電算機会計事務所		聖マリア幼稚園	水野嘉子	中谷塩子	

助成金

社会福祉法人愛知県共同募金会

(上記期間内に何度もご寄付くださっている方もお名前は1回にさせていただきます)



点滴

新年あけましておめでとうございます。と事務所に入ったところ、1月3日付けの朝日新聞1面一杯のコピーが張り出されていた。朝日社会福祉賞の表題が大きく目につくと同時に、オヤ!!、よくお見かけするお顔の写真が2コマ、受賞者お二人の一人は私達愛知「いのちの電話」協会の理事長相馬信夫氏(カトリック名古屋教区司教)、もう一人の方は日本いのちの電話連盟理事長秋山聡平氏でした。

朝日社会福祉賞受賞のお二人が揃いも揃って私達の属する「いのちの電話」に関係ある方であることは偶然であったとは云え「いのちの電話」の精神の基本にあるものが、日頃目に見えないところで生きている人権の尊重、いのちの大切さを守ろうとする働きが評価されたものと云えるのではないのでしょうか。バブル経済の崩壊後の醜い社会の惨状の中に清々しい人々の存在に感動する方は多いと確信しています。

K. K

名古屋いのちの電話日誌

1992

- |        |                    |        |                              |
|--------|--------------------|--------|------------------------------|
| 10月 5日 | 第16回自殺予防シンポジウム 於札幌 | 11月18日 | 運営委員会、訓練委員会                  |
| 9・10日  | 日本連盟、ディレクター会議 於大阪  | 28日    | 財務委員会                        |
| 14日    | 理事会、評議員会、訓練委員会     | 29日    | 機関紙編集委員会                     |
| 18日    | 宗教者による街頭キャンペーン     | 12月 8日 | 第8回チャリティー<br>酒井多賀志クリスマスコンサート |
| "      | 仮称 愛知電話相談研究会       | 16日    | 運営委員会、訓練委員会                  |
| 19日    | 東京いのちの電話20周年記念式開催  | 25日    | 公衆電話BOXへのステッカー貼り開始           |
| 21日    | 運営委員会              | 1月 3日  | 相馬理事長朝日社会福祉賞受賞発表             |
| 24日    | 財務委員会              |        |                              |
| 27日    | バザー（中央教会にて）        |        |                              |
- 11月9・10日 全国電話相談研究集会 於金澤 参加5名

公衆電話ボックスにステッカー貼り運動

以前からNTTに要望していた上記の件は地域別に貼る許可をいただきました。（1回目、昭和、瑞穂、天白、緑の各地域より展開します）1人の自殺者も出さないために「いのちの電話」を1人でも多くの人に知ってもらうためのステッカー貼りです。

賛助会員を募集しています

ご協力をお願いします

いつも資金ボランティアとして会費やご寄付でご支援いただき有難うございます。心から御礼申し上げます。年間1,500万円の運営資金と共に、法人の基金を10年間で1億円積立てる課題を与えられています。会員の皆様のご支援と共に、会員増加の運動にもお力添え下さるようお願いいたします。

会費、寄付金は次の様をお願いしております。

- (1) 法人会費 年間5万円以上・10万円
- (2) 賛助会費（個人、年間1口）  
A 10,000円 B 5,000円 C 3,000円
- (3) 一般寄付 } ご自由な金額で結構です
- (4) 夏期・年末寄付 }

会費、寄付金のご納入は、次の口座にお振込み下さいれば誠に幸でございます。

- 口座番号 東海銀行大津町支店(普)477029
- 郵便振替口座 名古屋1-53758
- 口座名 社会福祉法人愛知「いのちの電話」協会  
理事長 相馬 信夫

私共は社会福祉法人となり、所得税法人税の税法上の優遇措置が次のように受けられるようになりました。従って本協会の発行する領収書は確定申告の折そのまま、寄付金控除の、又、法人の場合は損金に算入の証憑となりますので（損金指定番号はありません）領収書は大切に保管してください。

★個人の場合

確定申告によって、所得税法（第78条1項2項3号）の規定により寄付金控除が受けられます。

寄付金額又は、所得額×0.25のいずれか低い金額から一万円を減額した金額＝寄付金控除額

★法人の場合

確定申告によって寄付した金額を法人税法（第37条3項3号）の規定により、一般損金算入枠と他にこれと同額枠（従って倍額）の損金算入枠が認められます。

お問い合わせは

本協会 事務局 ☎ 971-5181

【MEMO】

二月は「如月」ともいわれ、その意味は「生更」と辞書に記されています。一年中で最も寒い月といわれますが枯草の中には、もうよもぎや露のとうが芽を出していることに気がつき春への期待に胸がふくらみます。

又、皆様のお手もとに機関紙早春号をお届けできることを嬉しく思います。今年も小さな「いのちの電話」の歩みを見守り援助して下さい。お願いいたします。

社会福祉法人愛知「いのちの電話」協会  
名古屋いのちの電話

1992.早春

〒461-91 名古屋東郵便局 私書箱 第257号  
事務局 ☎052-971-5181  
相談電話 ☎052-971-4343

郵便振替口座 名古屋 1-53758  
東海銀行大津町支店(普)預金口座 477029

1992年2月1日発行  
発行人 相馬 信夫  
編集人 広報委員会